

令和7年度病害虫発生予察情報 発生予報第6号(7月)

令和7年7月30日
発表：福島県病害虫防除所

【注意が必要な病害虫】

果樹	<ul style="list-style-type: none"> ■ 果樹共通：果樹カメムシ類（令和7年7月10日付け注意報参考）-① ■ リンゴ、モモ、ナシ：ハダニ類 -① ■ リンゴ：リンゴ褐斑病（令和7年6月30日付け防除情報参考）-② ■ モモ：モモハモグリガ、ナシヒメシンクイ -②
野菜花き	<ul style="list-style-type: none"> ■ 夏秋トマト：トマト黄化葉巻病（TYLCV）-③ ■ トルコギキョウ：トルコギキョウ葉巻病（令和7年7月22日付け防除情報参考）-③ ■ 野菜花き共通：オオタバコガ（令和7年6月30日付け防除情報参考）、ハダニ類 -② ■ 秋冬ねぎ：ネギアザミウマ -③



**病害虫防除所
HPは
←こちらから**



**病害虫に関する
防除対策の
ページは
←こちらから**

※ 上記の表に記載された病害虫は、下記の①～③に該当します。

- 注) ①現状において、注意報レベルの防除を要すると判断された病害虫
 ②「1 主な病害虫の発生予報」のうち、予察調査の結果、発生時期が「やや早い」、発生量が「やや多い」と予測された病害虫の中で特に懸念される病害虫
 ③「1 主な病害虫の発生予報」以外で、調査の結果、県全域的に発生が多く、問題になると判断した病害虫

1 主な病害虫の発生予報

(1) 果樹

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	斑点落葉病	全域	—	平年並	新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	天候に注意しながら、散布間隔があきすぎないように薬剤散布を実施する。
	褐斑病	中通り 会津	—	やや多い 平年並	新梢葉での発生ほ場割合は、中通りでは平年よりやや高く(+)、会津では平年並(±)であった。	現在、本病の二次感染期であるので、感染拡大を抑制するため天候に注意しながら、散布間隔があきすぎないように薬剤散布を実施する(令和7年6月30日付け令和7年度病害虫防除情報(リンゴ褐斑病)参照)。
	黒星病	全域	—	平年並	新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	発病部位は見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分する。 天候に注意しながら、散布間隔があきすぎないように薬剤散布を実施する。
	キンモン ホソガ	県北 ・会津 県中 ・県南	—	平年並 やや多い	県北・会津地方では新梢葉での発生ほ場割合は平年並であり(±)、県中・県南地方では平年よりやや高かった(+)	発生が多いほ場では、薬剤防除を徹底する。

リンゴ	ハダニ類	全域	—	多い	新梢葉寄生の発生ほ場割合は、 県北地方では平年より高く、県中・ 県南・会津地方では平年よりやや 高かった（＋）。東北地方の1 か月予報（令和7年7月24日発 表）によれば、向こう1か月の平 均気温は高いと予想されている （＋）。	園内の発生状況を確認 し、要防除水準（1葉当 たり雌成虫1頭以上）に達し た場合は、薬剤散布を実施 する（令和7年7月10日 付け令和7年度病害虫防 除情報（果樹ハダニ類）参 照）。
モモ	灰星病	中通り	—	平年並	果実での発生ほ場割合は平年 並であった（±）。	収穫期の20日前頃から 果実感染がしやすくなる ため、特に不順天候時は散 布間隔があきすぎないよ う薬剤散布を実施する。
	せん孔細菌病	中通り	—	やや少ない	新梢葉、果実での発生ほ場割合 は平年よりやや低かった（－）。	発病部位は見つけしだ い除去し、園外に持ち出す など適切に処分する。
	モモハモグリガ	中通り	—	やや多い	7月中旬の新梢葉被害の発生ほ 場割合は、平年よりやや高かった （＋）。	今後の気温が2℃高く 推移した場合、本種の第5 世代の防除適期は8月2 半旬頃と推定されており （果樹研究所、7月25日 現在）、本予測を参考に防 除を徹底する。
	ナシヒメシンクイ	福島地域 伊達地域	— —	平年並 やや多い	7月上旬の新梢葉被害の発生ほ 場割合は、福島地域は平年並であ り（±）、伊達地域では平年より やや高く、中発生や多発生 のほ場が確認された（＋）。	今後の気温が2℃高く 推移した場合、本種の第4 世代幼虫の防除適期は8 月2半旬頃と推定されて おり（果樹研究所、7月 25日現在）、本予測を参 考に中晩生種での防除を 徹底する。
	ハダニ類	中通り	—	多い	新梢葉寄生の発生ほ場割合は 平年より高く、多発生や中発生 のほ場が確認された（＋）。東北 地方の1か月予報（令和7年7月 24日発表）によれば、向こう1 か月の平均気温は高いと予想さ れている（＋）。	園内の発生状況を確認 し、要防除水準（1葉当 たり雌成虫1頭以上）に達し た場合は、薬剤散布を実施 する（令和7年7月10日 付け令和7年度病害虫防 除情報（果樹ハダニ類）参 照）。
ナシ	黒星病	全域	—	平年並	新梢葉及び果実での発生ほ場 割合は平年並であった（±）。	発病部位は見つけしだ い除去し、園外に持ち出す など適切に処分する。
	ハダニ類	全域	—	多い	新梢葉寄生の発生ほ場割合は、 県北・県中・県南地方では平年よ り高く、浜通り地方では平年並 であったが、中発生や多発生 のほ場が確認され、葉焼け症 状が確認された（＋）。東北 地方の1か月予報（令和7年7 月24日発表）によれば、向 こう1か月の平均気温は高い と予想されている（＋）。	園内の発生状況を確認 し、要防除水準（1葉当 たり雌成虫1頭以上）に達し た場合は、薬剤散布を実施 する（令和7年7月10日 付け令和7年度病害虫防 除情報（果樹ハダニ類）参 照）。

果樹共通	カメムシ類	県北・会津・浜通り北部	—	多い	4月5半旬～7月4半旬のフェロモントラップにおける誘殺数は、県北・会津・浜通り北部で平年より多く(+)、県中・県南・浜通り南部では平年並であった(±)。東北地方の1か月予報(令和7年7月24日発表)によれば、向こう1か月の平均気温は高いと予想されている(+)	第一世代成虫の園地への飛来状況をよく確認し、多数の飛来が確認された場合、薬剤散布を実施する(令和7年7月10日付け令和7年度病害虫発生予察情報注意報第1号参照)。
		県中・県南・浜通り南部	—	やや多い		

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

(2) 野菜、花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
夏秋トマト(被覆栽培)	灰色かび病	全域	—	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった(-)。	発病葉は摘除し、防除を徹底する。 多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	葉かび病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	すすかび病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	アブラムシ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	コナジラミ類	全域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。また、天候予報(仙台管区气象台7月24日発表)によると、向こう1か月の期間の前半は、気温がかなり高くなると予想されている(+)	ほ場をよく観察し、発生が見られる場合は、速やかに防除を実施する。 一部のほ場で寄生葉率の高いほ場が確認されており、トマト黄化葉巻病の発生も確認されている。薬剤による防除を徹底し、葉裏まで薬剤がしっかりとかかるように防除する。
	アザミウマ類	全域	—	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった(-)。	ほ場への侵入を防ぐため、開口部を防虫ネットで被覆する。 ほ場をよく観察し、発生初期から防除を徹底する。
	ハモグリバエ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	まん延すると防除が困難となるので、発生初期から防除を実施する。
夏秋キュウリ(露地栽培)	べと病	全域	—	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった(-)。	多湿条件が続くと発病しやすくなるので、発生初期から防除を実施する。

夏秋キュウリ (露地栽培)	うどんこ病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	まん延すると防除が困難となるので、発生初期から防除を実施する。
	炭疽病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	発病葉は摘除し、発生初期から防除を実施する。 排水対策の徹底、過湿防止、資材の消毒に努める。
	褐斑病	全 域	—	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった(－)。	発病葉は摘除し、発生初期から防除を実施する。 被害茎葉残さは、必ずほ場外に持ち出して処分する。また、資材の消毒に努める。 なお、耐病性のない品種を定植しているほ場では、特に注意し、防除を徹底する。
	アブラムシ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、すみやかに防除を実施する。 ウイルス感染株が発生している場合は、速やかに抜き取る。
	ハダニ類	全 域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。また、天候予報によると、向こう1か月の期間の前半は、気温がかなり高くなると予想されている(+)。	ほ場をよく観察し、低密度時から防除を実施する。薬剤抵抗性の発達が懸念されるため、異なる系統のローテーション散布を実施する。
キク(露地栽培)	白さび病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	多湿条件が続くと発病しやすくなるので、予防散布に努める。 品種により発病に差があるので、発病しやすい品種では防除を徹底する。
	アブラムシ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	ハダニ類	全 域	—	多い	発生ほ場割合は、平年よりやや高かった(+)。また、天候予報によると、向こう1か月の期間の前半は、気温がかなり高くなると予想されている(+)。	高温乾燥条件で急激に、発生量が増えるため、ほ場をよく観察し、低密度時から防除を実施する。 抵抗性の発達が懸念されるため、防除薬剤の選択に注意する。
	アザミウマ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	ほ場をよく観察し、葉裏まで薬剤がかかるように防除を実施する。 なお、一部ほ場では、ケロイド症状が確認されているため、防除を徹底する。

リンドウ	葉枯病	全 域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年よりやや高かった（+）。一部ほ場では、中位葉以上での発生が確認されている。	多湿条件で発生が多くなるので、予防散布に努める。
	褐斑病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	病徴を確認してからの薬剤防除では効果が期待出来ないため、発病前からの予防散布に努める。
	ハダニ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった（-）が、天候予報によると、向こう1か月の期間の前半は、気温がかなり高くなると予想されている（+）。	高温乾燥条件で、急激に発生量が増えるため、ほ場をよく観察し、低密度時から防除を実施する。
野菜、花き共通	オオタバコガ	全 域	-	やや多い	キクにおける発生ほ場割合は、平年よりやや高く（+）、キクやトマト、ピーマン等での発生が確認されている。7月25日時点で性フェロモントラップへの誘殺数の増加も確認されている。	キクでは生長点付近、ピーマンやトマト等では果実等をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行う。

注) 予報の根拠の中で（+）は多発要因、（-）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

2 発生が懸念される病害虫

ナシ	<p>■ ナシヒメシンクイ</p> <p>今後の気温が2℃高く推移した場合、本種の第4世代幼虫の防除適期は8月2半旬頃と推定されています（果樹研究所、7月25日現在）。本種は、モモ等の核果類の新梢伸長が停止すると、ナシ果実への寄生が増加します。例年、ナシの果実被害が多い地域では、近隣のモモやウメ等の芯折れの発生状況に注意し、県農作物病害虫防除指針や地域の防除暦を参考に防除を徹底しましょう。なお、昨年度、ナシヒメシンクイに対する防除効果が高く残効の長い殺虫剤が明らかとなりましたので、本情報も参考にしましょう（令和6年度農業総合センター参考となる成果、http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/680224.pdf）。</p>
モモ	<p>■ シロカイガラムシ類</p> <p>病害虫防除所の7月中下旬の巡回調査において、側枝におけるシロカイガラムシ類の寄生ほ場割合は、福島地域は平年並、伊達地域は平年よりやや高い状況でした。ウメシロカイガラムシの幼虫発生期は、通常、第2回目が7月下旬～8月中旬であるため、発生が多い場合は、県農作物病害虫防除指針や地域の防除暦を参考に防除を徹底しましょう。</p>
トマト	<p>■ トマト黄化葉巻病 (TYLCV)</p> <p>夏秋トマト、ミニトマトで、トマト黄化葉巻病の発生及び発生地域の拡大が確認されています。発生ほ場においては、コナジラミ類の防除を徹底してください。また、発病が疑われる株については速やかに抜き取り処理を行ってください。なお、今後定植するほ場では、コナジラミ類の侵入を防止するため、ハウス開口部に防虫ネット（0.4mm目合い）を設置しましょう。病害虫防除所ホームページでも情報を掲載しているため、下記のURLも参考にしてください。 【注意喚起～トマト黄化葉巻病 (TYLCV) のまん延防止対策～】 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/544337.pdf 【トマト黄化葉巻病 (TYLCV) 対策 チラシ】 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648953.pdf 【トマト黄化葉巻病 (TYLCV) 対策 パンフレット】 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648954.pdf</p> <p>■ トマト褐色輪紋病</p> <p>南会津地域において、6月下旬頃から発生を確認しています。本病害は、高温多湿条件での発生が多く、草勢が低下すると病勢の進展が助長されるため、今後の発生に注意が必要です。</p>
トルコギキョウ	<p>■ トルコギキョウ葉巻病 (TYLCV)</p> <p>浜通り地域において、7月上旬にタバココナジラミの寄生及びトルコギキョウ葉巻病の発生を確認しています。本病は、タバココナジラミによって引き起こされます。ほ場をよく観察し、コナジラミ類の発生が見られたら薬剤防除を行いましょう。また、感染した株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取って適切に処分しましょう。</p>

<p>秋冬ねぎ</p>	<p>■ ネギアザミウマ 今年は例年よりも、寄生葉率の高いほ場が確認されています。高温乾燥条件で発生が助長され、多発してからの防除は困難ですので、早期防除に努めましょう。また、本種は IYSV 等のウイルスを媒介するため、注意が必要です。</p>
<p>野菜・花き共通</p>	<p>■ ハダニ類 キクの巡回調査において、ハダニ類の発生ほ場割合が平年よりやや高い状況でした。また、一部場で寄生密度の高いほ場が確認されています。今後の高温乾燥条件で急激に発生量が増えることが予想されるため、ほ場をよく観察して、低密度時から防除を実施しましょう。</p>